

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

開会年月日時刻	令和2年9月25日(金) 午後3時00分
閉会年月日時刻	令和2年9月25日(金) 午後5時04分
会議の場所	向井千秋記念子ども科学館 会議室
会議次第	
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 協議・調整事項</p> <p style="padding-left: 40px;">(1) 館林市教育大綱について</p> <p style="padding-left: 40px;">(2) コロナ禍における学校教育について</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>	

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>出席者</p>	<table border="0"> <tr> <td>館林市長</td> <td>須藤 和臣</td> </tr> <tr> <td>館林市教育委員会</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 教育長</td> <td>小野 定</td> </tr> <tr> <td> 教育長職務代理者</td> <td>谷田川 敏幸</td> </tr> <tr> <td> 委員</td> <td>猪熊 妙子</td> </tr> <tr> <td> 委員</td> <td>中村 研司</td> </tr> <tr> <td> 委員</td> <td>金子 千秋</td> </tr> </table>	館林市長	須藤 和臣	館林市教育委員会		教育長	小野 定	教育長職務代理者	谷田川 敏幸	委員	猪熊 妙子	委員	中村 研司	委員	金子 千秋														
館林市長	須藤 和臣																												
館林市教育委員会																													
教育長	小野 定																												
教育長職務代理者	谷田川 敏幸																												
委員	猪熊 妙子																												
委員	中村 研司																												
委員	金子 千秋																												
<p>説明等の ため出席 した者</p>	<table border="0"> <tr> <td>(事務局)</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 政策企画部長</td> <td>栗原 誠</td> </tr> <tr> <td> 教育次長</td> <td>青木 伸行</td> </tr> <tr> <td> 秘書課長</td> <td>中村 豊</td> </tr> <tr> <td> 企画課長</td> <td>木村 和好</td> </tr> <tr> <td> 教育総務課長兼学校給食センター所長</td> <td>鈴木 匡</td> </tr> <tr> <td> 生涯学習課長</td> <td>武井 邦晴</td> </tr> <tr> <td> 学校教育課長</td> <td>小林 秀夫</td> </tr> <tr> <td> 文化振興課長</td> <td>戸叶 俊文</td> </tr> <tr> <td> スポーツ振興課長</td> <td>加藤 雅央</td> </tr> <tr> <td> 向井千秋記念子ども科学館長</td> <td>額田 繁正</td> </tr> <tr> <td> 図書館長</td> <td>石崎 治</td> </tr> <tr> <td> 総括係長</td> <td>折原 嘉和</td> </tr> <tr> <td> 書記</td> <td>打木 洋輔</td> </tr> </table>	(事務局)		政策企画部長	栗原 誠	教育次長	青木 伸行	秘書課長	中村 豊	企画課長	木村 和好	教育総務課長兼学校給食センター所長	鈴木 匡	生涯学習課長	武井 邦晴	学校教育課長	小林 秀夫	文化振興課長	戸叶 俊文	スポーツ振興課長	加藤 雅央	向井千秋記念子ども科学館長	額田 繁正	図書館長	石崎 治	総括係長	折原 嘉和	書記	打木 洋輔
(事務局)																													
政策企画部長	栗原 誠																												
教育次長	青木 伸行																												
秘書課長	中村 豊																												
企画課長	木村 和好																												
教育総務課長兼学校給食センター所長	鈴木 匡																												
生涯学習課長	武井 邦晴																												
学校教育課長	小林 秀夫																												
文化振興課長	戸叶 俊文																												
スポーツ振興課長	加藤 雅央																												
向井千秋記念子ども科学館長	額田 繁正																												
図書館長	石崎 治																												
総括係長	折原 嘉和																												
書記	打木 洋輔																												

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

教育総務課長	定刻となりましたので、ただ今より令和2年度第1回館林市総合教育会議を開会します。 (午後3時00分)
教育総務課長	それでは、お手元の次第に沿って進めてまいりたいと思います。はじめに、当会議の招集者であります須藤市長よりご挨拶をお願いいたします。
市長	皆さま、こんにちは。本日、令和2年度第1回総合教育会議の開催に当たりまして、教育委員の皆さまをはじめ、関係者の皆さまには、お忙しいなかお集まりいただきまして、心から感謝を申し上げます。この総合教育会議は、平成27年度から始まりまして、今回で9回目、私が市長に就任してからは7回目の開催となります。この総合教育会議は、私たち市長部局と教育委員会が地域の課題や本市教育の目指すべき姿を共有し、効果的に教育施策を推進するための会議であります。協議を通じまして、相互の連携をより一層図ってまいりたいと思います。さて、本日の議題は、(1)『館林市教育大綱について』、(2)『コロナ禍における学校教育について』の2つを掲げさせていただきました。これらの議題は、皆さまの貴重なご意見をいただきながらしっかり進めてまいりたいと考えている事案でございます。教育委員の皆さまには、忌憚のないご意見をいただき、実りある会議となるようご協力をお願い申しあげまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。
教育総務課長	ありがとうございました。それでは、会議に入りたいと思います。ここからは、館林市総合教育会議運営要綱第3条の規定に従いまして、須藤市長に議長を務めていただきたいと思います。市長、議事の進行をよろしくお願ひします。

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長

それでは、これより議長を務めさせていただきます。お手元の次第をご覧くださいと思います。3 協議・調整事項に入ります。はじめに、(1) 館林市教育大綱についてを議題といたします。こちらにつきましては、協議・調整事項とした理由を教育委員会事務局から説明をいただきたいと思います。

教育次長

館林市教育大綱について、協議・調整事項とした理由を申し上げます。

教育大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の3に基づき、市長が総合教育会議において教育委員会と意思の疎通を図りながら、教育に関する総合的な施策の目的や方針を定めるものであります。現在の本市の教育大綱は、平成30年度の総合教育会議におきまして、館林市第五次総合計画「たてばやし市民計画2020」の将来のまちの姿や基本目的を共有しながら、その実現に向けた教育分野における重点的な取り組み事項を掲げ、策定されました。

この教育大綱が対象とする期間は、平成31年度から令和2年度の2年間となっております。これは第六次総合計画に合わせるためのものであります。市としましては、令和3年度以降の教育施策の根本的な方針を定めていく必要がございます。

このことから、今回、協議・調整事項として提案させていただきます。現在策定中の館林市第六次総合計画の基本構想や基本計画に合わせながら調製しましたお手元の「たたき台」を基に、皆さまからご意見をお伺いし、次期教育大綱を策定してまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

市長

ありがとうございました。以上のような理由から、館林市教育大綱についてを議題とさせていただいておりますが、議題とすることにご異議ございませんか。

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

	(委員より「異議なし」の声あり)
市長	ありがとうございます。それでは、次に関連する資料が用意されておりますので、こちらの説明についても事務局からお願いしたいと思っております。
教育総務課長	(1) 館林市教育大綱について (別紙資料(1)に基づき説明)
市長	ありがとうございました。ただ今、事務局より説明がございました。このことを柱としながら、皆さまからご意見をお伺いしたいと思います。まず、教育大綱は今回ですべて確定する訳ではなく、まずはたたき台ということでご提示をいただいたものと受け止めております。ただし、今年度中に策定しなければならないタイムスケジュールであると思いますので、最終的には次回の総合教育会議の場で確定していくこととなります。今日は自由闊達にご意見をお寄せいただいで、なおかつ、お持ち帰りいただくなかで、検討していただけたらと思います。
市長	それでは、一人ずつご意見をいただきたいと思いますが、まず、猪熊委員からいかがでしょうか。
猪熊委員	前回の教育大綱と比べますと大分細かく丁寧に表現されていて、取り組みが具体化しやすいと思いました。読んでいて感じたこととしますと、学校教育、青少年、生涯学習などの分野に分けた時に、青少年の「子ども」という言葉に含まれているのかどうか分かりませんが、前回の教育大綱では、「子ども」というのは18歳までというお話があったと思いますが、「幼児期」という言葉がなくて、教育のなかで幼児教育というものも大事であると思いますし、家庭の

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>力を育てるのにも幼児期は大切であると思いますので、どこかに幼児教育に関わることが言葉として入った方が、意識できていいと思いました。県の方では、家庭の教育力というところに入っていたかと思います。</p> <p>それが一つと、「(1)自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまち」のなかの、「・社会人として自立するために必要な能力や態度に着目した小中連携の推進」に関して、小中の連携も非常に大事ではあるのですが、幼児教育と小学校教育のつながりも子どもを健全に育成していくために大切であると思いますので、この辺の視点もあるとよいかと思いました。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。ただ今のご発言に対して、委員さんや事務方から何かコメントをすることがありますでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>ただ今ご意見をいただきまして、やはり、ご指摘のありました家庭教育における幼児教育の大切さということも重要ですし、小中連携の推進のなかで、ここでも、幼稚園から中学校までの連携や系統的な指導は必要と思います。ここに着目をして、キャリア教育という視点を入れながら、文言等を修正していくべきと改めて思っております。以上です。</p>
市長	<p>猪熊委員、いかがでしょうか。</p>
猪熊委員	<p>言葉として入れていただけたら意識できると思いますので、よろしくをお願いします。</p>
市長	<p>よろしいでしょうか。それでは、次に金子委員からいかがでしょうか。</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>金子委員</p>	<p>私も猪熊委員のように新旧で比べてみましたら、やはり今回の方が具体的で細やかに表現できていると思いました。それと、将来都市像のところ、「里沼の息づく持続可能で強靱な暮らしやすいまち館林」とありますが、「里沼の息づく」と「持続可能で」と「強靱な暮らしやすい」という言葉が、何か言葉として分離していて、付け足したような感じがして、繋がらないような気がしました。</p> <p>それと、「(3)生涯にわたって学び続けることができ、生きがいと活力に満ちたまち」のなかで、「サービス」という言葉が多く使われていますが、市の方からの「サービス」という点で違和感を感じました。改めて「サービス」という言葉を辞書で調べてみたのですが、奉仕とかおまけなどという言葉も出てきたのですが、「貸出サービス」、「情報サービス」というところを違う文言、言葉に入れ替えられないものかと思いました。以上になります。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。二点ほどあったと思いますが、一つは、第六次総合計画のなかの将来都市像へのご指摘でございました。もう一つは、「サービス」という言葉に対して代替的な言葉がなかろうかということでございました。これについて、委員さんや事務局から何かお答えをすることがありますでしょうか。</p>
<p>図書館長</p>	<p>まず、「サービス」という言葉の考え方ですが、図書館運営のなかでは図書館奉仕という形でサービスと繋がっております。この度の「サービス」という言葉は、図書館の取り組みから掲載したものでありますが、生涯学習分野全体から見ていく必要もありますので、修正を検討し、全体が表現できるような形を考えていきたいと思っております。以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>金子委員いかがでしょうか。確かに、私たち行政の考え方としても、行政はサービスなのか、市民の皆さまへのサポートなのかという話もございまして、サービスよりもサポートの方が相応しいの</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>ではなかろうかという議論も実際にはあります。大変重要なポイントであると思います。このところで代替えとしますと、情報提供という言葉にもなりうると思いますし、「・地域の課題に対応したサービスの向上」というところでは、「サポートの向上」という言葉でも成り立つと思いますし、いろいろな選択肢はあると思います。図書館長に代表してお答えいただきましたが、このところの言葉の確認をするということによろしいでしょうか。</p>
金子委員	<p>はい。ありがとうございます。</p>
市長	<p>もう一つ、将来都市像についてのお話がありましたが、政策企画部長や企画課長の方から何か見解がいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。</p>
政策企画部長	<p>それでは、私の方から将来都市像についてご説明させていただきます。言葉が繋がらないというご指摘であったかと存じます。昨今、自然災害が多発している時期でございます、そのなかで、一層防災意識を持って対応していかなければならない状況になっております。館林市としましては、今年3月に国土強靱化計画を策定いたしまして、それに向けて歩みを進めております。一方で、全国的な流れではありますが、東京一極集中ですとか、少子高齢化、人口減少時代を迎えまして、今後そういったことに行政としましても、持続可能な行政を目指していかなければならないという状況がございます。これが、「持続可能で強靱な」といったところの表現に結び付くところでございますが、この前段になります「里沼の息づく」ということにつきましては、昨年5月に里沼が日本遺産に認定をされました。多くの沼をもつ館林市が、長い歴史をかけて築いてきました人と自然が調和した文化がまさに評価されたことございまして、郷土に誇りを持って、地域の課題を共有する形であらゆる面においても強靱で持続可能な里沼のまちを目指すといったことを将</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>来都市像として、今般、掲げさせていただきました。先日、総合計画の答申の方もいただいたところですが、これから第六次総合計画の具体的な実施計画等を作成しまして、取り組んで行こうという状況でございますので、ご理解をしていただけたらありがたいと思います。以上です。</p>
市長	<p>金子委員、いかがでしょうか。</p>
金子委員	<p>分かりました。ありがとうございました。</p>
市長	<p>少々補足をいたしますと、第六次総合計画の方は去年の11月に審議会の委員の皆さん、40名程に諮問をさせていただきました、そこで議論をしていただいて、先般、答申をいただいたところでございます。そこでは、将来都市像についても適当であると答申いただきまして、ただし、このことにつきましては、これからパブリックコメントを経まして、12月の市議会の方で議決をいただくような予定になっております。ですので、なかなか今この現場で変えるということは難しいということもございます。審議委員会の方に議論をいただきまして、「暮らしやすいまち」を加えていただいたりした経緯もございまして、ご理解いただければ幸いです。</p> <p>それから、「里沼の息づく」というところでは、国連のSDGsに繋がるような、まず、環境という視点が入っており、「持続可能で」というところには人口問題が入っております。非常に減少傾向にある我がまちでございますので、ここをどういう風に持続可能に持っていくのか、そして「強靱な」では、防災の観点もありますし、感染症の観点もありますし、どのような状況においても強くしなやかに立ち上がっていくことができるような、人々にとって幸せで暮らしやすいまちができなからうか、ということが将来都市像に含められた意味合いであると受け止めております。よろしいでしょうか。</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

金子委員	ありがとうございました。
市長	それでは、次に谷田川委員、いかがでしょうか。
谷田川委員	<p>大綱は本当によくまとめられていると思いますが、先ほどの「サービス」の件ですが、行政サービス、市民サービスといった言葉をよく耳にしますので、あまり違和感はなかったのが感想なのですが、事務方の方でよく協議していただいて決めていただけたらと思います。</p> <p>私の方からは、一点、気になる点があったのですが、「(2)心身ともに健全な子どもが育つ家庭や地域の教育力が高いまち」に関連して、これまでは、「思いやりの心」とか「命を大切に教育」という言葉があったのですが、やはりいじめ問題ですとか先日の事故等もありますので、その辺は最も大切ではないかと思います。ぜひ残していただけたらと思います。後は、教育行政方針の方で細かく決めていきますので、あまりいじらなくてもいいかと思いますが、やはりこの点だけは戻していただけたらありがたいと思いました。以上です。</p>
市長	ありがとうございました。この点についてはいかがですか。
学校教育課長	今ご指摘いただきましたご意見ですが、いじめや不登校の問題、先日の交通事故等、命の問題もございますので、ご意見を踏まえまして、そのような文言を追加することも検討していく必要があると考えております。
谷田川委員	ありがとうございます。
市長	よろしいですか。それでは検討事項としてよろしくお願いします。

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長	では次に中村委員、いかがでしょうか。
中村委員	<p>私も、この会議でどうこうできることではないのですが、将来都市像のところ少し引っかけたのですが、これはパッと見て市長さんが日頃から目指している、おっしゃっていることをまとめたものだということはよく分かるのですが、先ほども説明がありましたが、スローガンのものとしては長くて分かりづらいというイメージです。「里沼の息づく」というところで、息づくのは里沼ではなく里沼文化であると思いますが、そうするとさらに長くなりますので、これはこれで上手くまとめたのかなということで、やはりそれでも長いかなと思いました。これはここでどうこうできるものではないということは重々分かっております。</p> <p>それと、里沼を調べようとウィキペディアを見ましたら、里沼はありませんでした。書き込みが全然なく、ウィキペディアは皆さんが見ると思いますので、担当課長さんやどなたかが書き込みをする必要があるのではないかと思います。この点は特にご意見を頂戴しなくても大丈夫です。</p> <p>また、基本目的のところ教えていただきたいのですが、説明文のなかに、「香り高く 地域文化を織りなすまち」とありますが、香り高い地域文化のイメージがわからないのですが、それはどういったものなのか、教えていただけたらと思います。</p>
市長	将来都市像につきましては先ほど説明をしましたが、もっと洗練された語呂があればよいのですが、その辺のご質問はよろしいですか。
中村委員	はい。
市長	それでは、「香り高く 地域文化を織りなすまち」についての説明をしていただいてよろしいでしょうか。

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>企画課長</p>	<p>まず、基本目的といわれるものは、かぎ括弧の中の「育てる幸せを感じ 生涯にわたり互いに学び続ける 家庭と文化を築くまち」というところをございまして、これが教育分野での基本目的になっております。その下に続く文章は、この基本目的の説明文になります。基本目的のなかの「家庭と文化を築くまち」というところの説明文が「豊かな心の人々と家庭が、香り高く地域文化を織りなすまち」というところに当たると思いますが、これが何を具体的に指しているかということもございまして、基本的には人のイメージ、心に訴えかけるようなところも含んでおりますので、ご理解をいただきたいと思ひます。</p>
<p>市長</p>	<p>中村委員、いかがでしょうか。</p>
<p>中村委員</p>	<p>申し訳ありませんが、今の説明ではよく分かりません。例えば、これを英語で表現すると、「GOOD SMELL」となるのでしょうか。この場でどうしてもお答えいただかなくても、後日でもいいので、ちょっと今では分かりづらいし、必要がないなら言葉を削除してもいい位の説明かと受け取りました。</p>
<p>市長</p>	<p>これにつきまして、今日コメントできなければ、この文言に至るまで、何回も議論を内部的にも審議会の皆さまにも行ってきて成り立ってきた言葉であると思ひますので、その時の変遷や意見等を含めて、改めてご説明させていただくということによろしいでしょうか。</p>
<p>中村委員</p>	<p>よろしくお願ひします。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、最後に小野教育長の方からお願ひいたします。</p>
<p>教育長</p>	<p>教育委員会で作成したものを私がまたコメントするもの何ですが、この大綱は第六次総合計画から引用されたものが多く、具体的に教</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

育委員会の方で新たなものを取り組みとして挙げたのが、「5 重点的な取組」ですので、特にこのところについて、私の方から意見を申したいと思います。

まず、私がここを読ませてもらう時に、三つの観点から読ませていただきました。一つ目は、市の第六次総合計画とこれから策定される教育行政方針の中位の目標がこの教育大綱である。具体的には、教育委員会のなかでは最上位になる訳ですが、ここに掲げたものは教育行政方針で施策として展開され、学校や各施設のなかで具体的に実施していくことになる大きな意味を持つものであるということです。

二つ目は、市の第六次総合計画は、持続可能な社会、まちを目指していると自分なりに認識しておりますが、そういう視点で見た時に、その持続可能な社会を実現するのは、そこにいる人です。そうすると、そこに人が住み続けたいまちになることがまず必要なことであると思います。そこには当然、幸せや生きがいを感じられるということがあると思いますが、特に大切にしていかななくてはならないのが、館林ならではの強み、特に特色が、この大綱のなかにどれだけ表現されてきているのか。これが二点目です。

三つ目は、一つの事業を複合的に俯瞰する。あるいは総合的に俯瞰する。各課で作られたものがここに挙げられておりますが、そういう狭い視点ではないと思います。例えば、生涯学習という時間軸のなかで捉えた時に、人生100年時代と言われますが、0歳から100歳までの生涯学習というものをイメージしていかななくてはならない。その時に、家庭教育、学校教育、社会教育というのは常に連続性のなかで教育として位置付けていかねばならないものであるということです。そして、その軸に沿った教育を実現するために基盤を整備する。施設や設備、機能が発揮される。そしてさらに、その学習を豊かにするものとして、科学や文化やスポーツが存在し、そこに住む人々の生活に潤いを与えていく、こういうものでなければ大綱のなかに謳うものとしてはふさわしくないのではないかと私自身

は考えました。

そこで、いくつか自分なりに考えた例示を挙げさせていただきますが、資料(1) - 2が配られていると思いますが、これに基づいてお話をさせていただきたいと思います。これは、総合教育会議の専門部会の皆さまが時間をかけて検討していただいたものですので、それをできるだけ尊重すべきであると考えております。従って、そういう視点に立った発言になります。

まず、1ページにあります「◆学習環境や生活環境の充実」では、教育委員会が挙げたのが「・学校等の施設整備の推進と教材教具の充実」なのですが、やはり私は、一番大切な「安全・安心な」という文言は欠かせないものと思います。そこで、頭に「安全・安心な」、「学校等」と「等」がありますが、ここでは学校のことを言っておりますので「等」を削り、「学校施設の整備の推進と教材教具の充実」、ただし「教材教具」というのはごく当たり前の一般的なことでありますので、これから市が進めていく施策を反映させていくとすれば、「ICT利活用のための環境整備」という言葉に置き換えてもよいのではと思います。

それから、その下の「◆夢と希望の実現に向けた支援の充実」、このところでは、委員の皆さまが言っていただいたキャリア教育の重要性です。私も同感です。しかし、当初学校教育課が挙げたものは、この視点が全くございませんでした。挙げていたのは、ICT機器、情報活用能力、コミュニケーション能力でありました。これから学校教育が目指していく方向というのは、社会状況の大きな変化のなかで、新しい時代に必要となる資質、能力というものは、未来をよりよい人生や社会の作り手となる力を学校教育のなかで育てましようということが、新しい教育のなかでは強く言われております。どういうことかということ、学校が、子どもたちが社会のなかでよりよく生きていけるように学ぶ場だということでもあります。そして、この学校で学んだ子どもたちによって未来のよりよい社会が作られていくということです。そうした生涯学習という時間軸のなか

で捉えていくことが必要と思います。そうした時に、やはりキャリア教育の視点を入れる必要があると思います。例えば、「幼稚園から中学校までの体系的・系統的なキャリア教育の推進」。あるいは、市として取り組んでおります異才発掘プロジェクトがありますが、これに限定するものではなくて、研究所でも不登校の子どもや障がいをもった子どもたちに対して教育を行っております。また、「まなびバ！シリウス」にも委託しまして、不登校の子どもたちのオンライン授業を市として進めようとしています。そういった視点を入れるとすれば、「（不登校や発達障がいなど）多様なニーズに応じた教育機会の提供」、こういったことも必要になるのではないかと考えております。

続いて、「◆地域の教育力を生かした学校運営」では、委員の皆さまに挙げていただいたのが、コミュニティスクールの理念であります。やはり地域と結びついた魅力ある学校教育を展開することがコミュニティスクール化することの大きな意味であると思いますが、もう一つ、国が考えている方向というのが、地域の皆さんが学校に来るだけではなくて、今度は、学校には多くのコミュニティがあり、そのコミュニティを生かして逆に地域を作っていこうという発想もある訳です。そうした時に、例えば学校を核とした地域づくりというものも重要になってきます。そここのところから出てくるのが地域協働本部ということになるかと思えます。ですので、こここのところでは、「・小中全校のコミュニティスクール化と地域学校協働活動の一体的推進」ということも必要になってくると思います。

それから、「◆確かな学力と豊かな心を育む教育の推進」では、最初事務局から挙げてきたものには、確かな学力についての記載がありません。そこで、確かな学力をつけさせるためには、これから市がGIGAスクールを推進してICTを有効に活用していこうというビジョンがある訳ですので、例えば「・ICTを有効に活用した教育の推進」、そのなかで個別最適化された学習を実現することですとか、スタディログを活用していくことであるとか、そういつ

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

たことを考えていくことができると思います。

そして、心の面でも、館林市においては日本遺産を考えるべきではないでしょうか。例えば、「・日本遺産「里沼」を活かした、郷土愛の醸成」、最終的には市長の言うシビックプライドというところまで行きたいのですが、学校教育のなかで、まず郷土愛というものを高めてやること、そういったなかで郷土に対する深い愛情や誇りが醸成されるなかで、やがて館林に対する深い郷土愛、そして郷土のために何か自分でもやっていきたい、そういった思いの行きつく先が、持続可能な社会に繋がっていくものと思います。

それと、時間の関係でもう一点ですが、「◆「自助」や「共助」の意識を育む教育の推進」では、『のびゆく館林』を活用した「自助」や「共助」の意識を育む授業実践の充実が述べられていますが、やはり大切なのは、学校だけではなくて生涯学習社会という時間軸のなかで考えていったときに、学校と地域が一緒になりながら防災というものを考えていく必要があると思います。例えば、「・地域や家庭、関係機関等と連携した「防災教育」の推進」、あるいはもっと付け足すならば「・共感力を高める地域や家庭、関係機関等と連携した「防災教育」の推進」。館林市は防災というものを重点化して取り組んでいますが、学校で知識として防災を教えるのではなくて、一つの地域と一体となったプロセスのなかに子どもたちが身を置くことによって、様々な大人たちの姿を見ることによって、そこに大人たちが命を助けるという思いのもとに防災教育があるという視点のなかで考えていくことが大事なことであると思います。

はじめに申しあげた三つに視点に基づいていくつか自分なりに考えたことですので、これは例示として受け止めていただいて、以下の事項についてもご検討いただけたらありがたいと思います。以上です。

市長

ありがとうございました。教育長さんのご意見に対して、直ぐに直ぐお答えするのは難しいと思いますが、いかがでしょうか。次の機

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

教育次長	<p>会までに検討していただいて、できる限り反映するものとして、代表して教育次長からコメントをいただけたらと思います。</p> <p>教育長からいただきました提言につきましては、次回までにもう一度内容を確認しながら、具体的に方向性が見えるような形の表現に変えながら、館林市が進んでいく方向が第六次総合計画と整合がとれるように内容を詰めていきたいと思っておりますので、ご理解の程よろしく申し上げます。</p>
市長	<p>それでは皆さま、事務局の方でさらに詰めていくということですので、よろしいでしょうか。</p> <p>(委員より「はい」の声あり)</p>
市長	<p>それでは、私の方からも最後に触れさせていただきたいと思っております。私の方からは市長部局を代表しての見解を述べさせていただくのですが、やはり今回の第六次総合計画、並びに総合戦略の方も一緒に作っているのですが、本市には大きな課題がいくつかありますが、代表的なものは、多分に漏れず人口減少時代、人口減少社会という状況に突入しているということです。ただし、取り組み次第で、この減少の推移を抑制することができる。昨今の状況では、自然減は止めることができない状況ではありますが、社会増減につきましてはここ2、3年かなり踏ん張っております、国の統計ではマイナスの部分も出ているのですが、実際、市役所の住民票の転出入の届け出を見ますと、3年前から反転しております、プラスに転じてきております。この流れを維持し、上昇局面に持っていくことが持続可能なまちづくりに資する一つのポイントかと思っております。</p> <p>そこにおいては、日本一暑いまちの看板を取り下げさせていただいたり、日本遺産「里沼」の認定でイメージをよくしたり、あるいは雇用という面で企業に頑張ってもらったりしておりますが、一</p>

つの大きなポイントは、幼児教育を含む学校教育において、特色のあるものを出していくことによって、選ばれていくまちになっていく、ということであると思っています。

本市の特徴としましては、ICT教育に関して、スタディサプリを導入したということは、公教育のイノベーションになると思っています。個別最適化学習ということでPRすることができると思います。オンライン学習に特徴を持っているということも、PRに入れてもいいのではないかと、あるいは、これからGIGAスクールを導入するに当たって、この後議論したいと思いますが、英語を特徴づけた学習に持っていくと、選ばれる市、選択される市としてよろしいのではないだろうか。一つの事例としますと、茨城県の境町というところが、他の近隣から人を集めているまちなんですね。その特徴は、境町に来れば英語が仕上がるよ、ということなんですけれども、喋れる人材が育つよ、ということにして、様々な子育て政策をやっているのですが、町長曰く、やはり英語ですと。英語が人を引き付けます、ニーズがありますということでした。ですから、GIGAスクールにおいては、英語に特徴を持ったポイント、あるいはサンシャインコースト市とのオンラインの提携ですとか、学校の空き教室を使った英語村ですとか、そういう特徴に持っていくことができたなら、社会増減にも寄与していただけるのではないのでしょうか。そして、そういうなかで、さらに郷土愛を醸成しながら、ここに住もう、ここで働こうという方向に持っていきたいと思っています。

私は、本当に学校は存続してもらいたいと願っております。しかし、学校に子どもがいなくなってしまうたら学校の存続意味がなくなりますので、その地域を守っていくためにも、人口、子どもの数は大事なことであると思いますので、そこは意思、意図をもってやっていただければと思います。

もう一つは、コミュニティスクールということで、学校にはお世話になっているのですが、一方で私たちは地区防災計画を作っており

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>まして、地域の自立のために、地区ごとに自治ができるようになるために、地域の方々が計画を自分たちで作っております。コミュニティスクールでは学校の先生と歩調を合わせて協働で学校を運営していくという考え方ですが、地区の自立ということがそれらによって育っていくと思っています。ですから、そういったことと連携しながら、先ほど教育長もおっしゃったように、防災教育も大人になってから学ぶのではなくて、災害の多い段階に入っておりますので、子どもたちの頃からということ強く意識していただけたらと思います。</p> <p>以上、雑駁ではありますが、申しあげておきたいと思います。</p>
市長	<p>このことにつきまして、何かございますでしょうか。</p> <p>(委員より「ありません」の声あり)</p>
市長	<p>よろしいでしょうか。教育大綱につきましては、次回までの期間にお気づきの点がございましたら、その間でもおっしゃっていただいて、次の機会に原案をお示しして、ご協議いただいて決定させていただけたらと思います。</p>
市長	<p>それでは、時間もありますので次のテーマに移りたいと思います。</p> <p>(2) コロナ禍における学校教育についてを議題としたいと思います。こちらについて、協議・調整事項とした理由を教育委員会の事務局からお話いただきたいと思います。教育次長、よろしくお願いいたします。</p>
教育次長	<p>コロナ禍における学校教育について、協議・調整事項とした理由を申しあげます。</p> <p>現在、連日のように新型コロナウイルスの感染事例が報告されております。本市においては、皆さまの手指消毒や三密を避ける行動に</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

よりまして感染者は少ない状況でございます。近隣では、9月に入って軒並み増えている状況でございますが、本市においては、大きな感染者数には繋がっていない状況でございます。

学校現場におきましては、感染拡大の可能性がありました去る3月2日から、政府の要請により全国一斉の臨時休業が行われました。その後、春季休業を経て、4月7日、政府の緊急事態宣言が行われたことを受けまして、本市の小中学校におきましても、ご承知のとおり5月末までの臨時休業を行いました。

その後は、学校再開に向けたロードマップやガイドライン等を示しまして、日々、感染症対策に取り組みながら学校運営に当たっておりますが、これまでに誰も経験したことのないような不透明な状況、子どもたちの教育環境は、今後もしばらくの間、続いていくものと考えております。

しかし、こうしたなかであっても、私たちは持続的に子どもたちの教育を受ける権利を保障し、学校における感染リスクを可能な限り低減させる努力をしながら、学校の教育活動を継続させていかななくてはなりません。

学校では、「3密」を避ける、「人との間隔が十分とれない場合のマスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など基本的な感染対策を継続する「新しい生活様式」を導入するとともに、地域の感染状況を踏まえ、学習内容や活動内容を工夫しながら可能な限り、授業や部活動、各種行事等の教育活動を継続し、子どもの健やかな学びを保障していくことが必要であると考えております。

新型コロナウイルス感染症については、どんなに感染症対策を行っても感染リスクをゼロにすることはできないということも一部では言われておりますが、これからは、感染症と上手に付き合いながらともに生きていくという、長期的な視点での考え方や対応が求められていることも事実であります。

このようなことから、本日は学校における感染症対策と子どもたちの学びの保障についての現状等を踏まえまして、コロナ禍における

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>これからの学校教育について、様々な視点からご意見を頂戴し、今後どのような取り組みができるのか、参考にさせていただきたいと思ひまして、議題とさせていただきました。よろしくお願ひします。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。以上のような理由から議題とさせていただいておりますが、議題とすることにご異議ございませんか。</p> <p>(委員より「異議なし」の声あり)</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。それでは、続きまして関連する資料が用意されておりますので、こちらの資料の説明を事務局からお願ひします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>(2) コロナ禍における学校教育について (別紙資料(2)に基づき説明)</p>
<p>市長</p>	<p>ただ今、事務局からの説明が終わりました。それでは、こちらのテーマで皆さまからご意見を賜りたいと思ひます。</p>
<p>市長</p>	<p>はじめに金子委員からお話をいただけますでしょうか。</p>
<p>金子委員</p>	<p>今まで経験したことのないような事態になっておりますが、臨時休業になってから、急にICTについての話が加速していると思ひます。実際にそれを使って、子どもたちがスタディサプリをやった時に、使った反応などは聞いているのでしょうか。それから、資料にある内容をすべて取り入れて、使いこなしていくための先生方への研修会などは行っているのでしょうか。やったことのない先生にとっては、ストレスを感じているのではないのでしょうか。確かに便利なところもありますが、急に進めてしまうと弊害などもあるのかと心配になりますので、特に小学生の低学年には指導者を多くつけて</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長

指導してあげないと、機材を使うこと自体、嫌いになってしまっ
ては困ると思いました。

スタディサプリの弊害等々がありましたら、調査の状況についてお
話しいただけたらと思います。

学校教育課長

スタディサプリの子どもたちの反応ですが、8割方の子どもが満足
しているというアンケート結果になっております。子どもにもよる
と思いますが、今まで家庭学習をしていなかった子どもたちが取り
組んでいるという話も聞いております。アンケートを見ますと、ス
タディサプ리를繼續したいとした子どもが8割近くおり、これは抽
出調査でありまして全員にしている訳ではありませんが、そのよう
な状況でございますので、素晴らしい取り組みであると思います。
特に、スタディサプリが効果を發揮しているのが、心の相談室に通
っている子どもたちです。いわゆる不登校傾向で、授業になかなか
出られない子どもたちが、その子のレベルに合わせて学習ができま
す。例えば、中学校三年生が小学校三年生の勉強に戻れる訳です。
この点については、とても効果を發揮していると思います。ただ残念
なことに、すべてのご家庭にこの環境が備わっている訳ではあり
ません。そこが一番の弊害であると思います。一人一台端末を実現
しますと、それをクリアすることができて、子どもたちへ個別最適
化された宿題を配信することができますし、先生たちの指導も個別
化されていきますので、非常に有効なものであると思います。
先ほど弊害という部分のなかで、先生たちの研修会も必要でありま
すので、これまで何回か行ってまいりました。各学校に得意な先生
がいると、その先生を中心にして学び合って使っていただい
ているという状況であります。
先ほど説明しましたロイロノートはこれからのものですので、これ
につきましても、計画的、段階的にやっていかないと、先生たちが
使いたくないということになってしまいますと困りますので、それ

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>は慎重に進めていきたいと思っております。</p> <p>そして低学年についてですが、低学年は、例えばタブレットを使おうとしても、入力することも難しいですし、検索することもなかなか難しいと思います。ただ、低学年にとって一番いいのは、一人一台ありますと、例えば、春を探してきてごらんという、自分たちの好きな春、蝶々や花を撮ってきて、それをもとにお友達に発表などをして、プレゼンテーション能力を育成することができるというように、低学年は徐々に、毎時間使うというよりは楽しみながら使える活動をさせていきたいと思っております。これにつきましても、今計画を立てている状況でございます。以上です。</p>
市長	金子委員、いかがですか。
金子委員	分かりました。使いこなしていかななくてはならなくて、できないと言っていたら進みませんので、少しずつでも、何回もやっていくことが必要だと思います。ありがとうございました。
市長	では次に、谷田川委員いかがでしょうか。
谷田川委員	確認ですが、スタディサプリを使っている方は全体のなかでどれ位いるのですか。
学校教育課長	小学四年生から中学三年生までの97%位です。
谷田川委員	その97%位のうち80%位の方がまた次も使いたいと言っているのですか。
学校教育課長	抽出調査のなかでの80%位の方でありまして、全体のアンケートではありません。

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

谷田川委員	分かりました。ありがとうございます。それと、今後一人一台となると、今までは四年生以上でしたが、一年生、二年生、三年生にも貸与するような計画であるということで認識してよろしいですか。
学校教育課長	小学一年生から中学三年生まで、一人一台という状況で活用していくのですが、低学年に関しましては、使い方を考えないと難しい部分がありますので、そのようなことを考えながらやっていきたいと思えます。
谷田川委員	スタディサプリについて、今までは四年生以上だったと思いますが、一年生から三年生はスタディサプリがないので貸与していないのかと思ったのですが、実際、すでに一年生から三年生までは貸与しているのですか。
学校教育課長	一年生から三年生までは、スタディサプリはありませんので貸与しておりません。
谷田川委員	では、これから一年生から三年生まで貸与するということですね。
教育総務課長	よろしいでしょうか。現在進めておりますGIGAスクール構想の一人一台の端末につきましては、館林市の場合、県の共同調達という形で群馬県の状況に沿った動きをとっております。まだ連絡は来ておりませんが、昨日、群馬県の方で機種を選定したと思われまます。そういったなかで、今後、一人一台を今年度中には整備をしたいと考えておまして、その後の対応として、学校教育課長がお話をしたような対応をとっていくものと思えます。
谷田川委員	分かりました。ありがとうございます。子どもは機械でも何でも触りながら覚えていってしまいますので、それ程難しくはないと思えます。先ほど課長がおっしゃったように、遊びを通じて、ゲーム感

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>覚のように、そういう使い方から始めれば大人より柔軟性があるって問題ないと思いますので、ぜひやっていただきたいと思います。</p> <p>それと、先ほど市長がおっしゃった英語村、面白いと思いました。これについて、英語村を立ち上げるととてもお金がかかるとか、そんな話があるかもしれませんが、そんなことを言っているのはダメだと思います。やってみればいいと思います。例えば、空いている場所に、ここは英語しか使えない場所だよと言って、遊び感覚でやらせてしまえばいいと思います。よくテレビ番組でも、英語を使ってはいけない、使うと罰ゲームになるよ、という番組がありますが、逆に、ここに入ると英語しか使ってはいけないと、子ども同士だけでも面白くできるのではないのでしょうか。やはり、難しく考えずにやってみるのもいいと思います。そこにボランティアの大人がいたり、先生でもいれば盛り上がっていくと思います。館林市の英語村、面白い発想ですので、すぐにできると思いますので、空いている空き地や空いている建物があればできますので、ゲーム感覚でやってみて、それを広くPRするといいと思いました。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>おもちゃのドル札を用意しておいて、安いお菓子を置いて、子どもがおもちゃのドル札でお菓子を買うというようなことも面白いかもしれません。</p>
<p>谷田川委員</p>	<p>それが段々発展していけば、ここは英語でドルですが、ここからは韓国語でウォンですなど、やってみると国際色豊かになり面白いと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>先ほどのGIGAスクール構想もすでにご案内であると思いますが、もともと館林市は段階的に整備していこうという考え方であります。国の方の方針で、今回一括で導入をすればたくさん補助金をくださるということで、ただし、今年度限りでないといけないということでありましたので、全国的に、今年度一括で導入していこ</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>うという方向性になっております。ただし、先ほど金子委員がご心配をされたように、低学年のお子さんがそんなに簡単に馴染めるのかという考え方もあり、高崎市と伊勢崎市の二つの市だけが現在においては慎重派で、きちんと準備してから臨もうという考え方になっております。群馬県としますと、いくつか選択肢はあるのですが、一括して購入すればその方が安く購入できる、国の補助金が4万5千円でありますので、館林市は一台当たり4万5千円で購入しようと思っております。</p> <p>やはり大事なのは、家庭に持ち帰って家庭学習ができるかどうかというところが、スタディサプリもそうですが、大事なポイントでございますので、タブレット端末型のものを導入できればということと報告を受けております。少し補足をさせていただきました。</p>
市長	それでは、次に猪熊委員いかがでしょうか。
猪熊委員	<p>谷田川委員もおっしゃっていましたが、子どもは機械に慣れるのが早くて、私も孫に教わる場所もありますし、一年生からコンピューターの授業はしていると思います。ですので、子どもの方が恐れをなさずにいじれるので、すぐに慣れてくれるのかなと思います。</p> <p>やはり教師側も子ども側も慣れることがより活用しやすくなるということであると思いますので、来年度も再来年度も継続して使えるように予算化していただけるといいと思います。不登校傾向の子どもが、それを使うことで自宅で勉強して、少しずつ力をつけていくことができるようになっていくということはとてもいいことで、外に出られないけれども学力がついていくということは、進路を決めていく時の自信になっていくと思います。研究所でないとダメだとか、ここでないとダメだよ、というのではなくて、自宅で活用できるということは素晴らしいことですので、ぜひ継続をお願いしたいと思いました。</p> <p>それから、もし今後もコロナが続いていくのであれば、例え</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p>	<p>ば、学校の水道の蛇口を、まだ回している蛇口であると思いますが、あれを一般家庭にあるような上げ下げするような蛇口に少しずつ交換していけば、誰が触ったか分からないものを使うよりはより衛生的かなという気がしますので、設備の方も少しコロナに対応したものにさせていただけるとありがたいと思いました。以上です。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>ありがとうございます。大きく二点あったと思いますが、何か見解をお示しできますか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>委員ご指摘のとおり、慣れていくということは必要で、継続が必要であると思いますので、子どもたちの使用状況や教員の意識調査などを行いながら予算要望の方をしていきたいと思います。</p>
<p>谷田川委員</p>	<p>学校の蛇口の関係ですが、実は今回の市議会の一般質問でも同じ質問をいただきましてお答えさせていただきましたが、蛇口のレバー式については、検討させていただいたのですが、全国的に需要が高く、ものがいつ入るのか分からないと業者から連絡がありまして、今回の補正予算には計上しませんでした。しかしながら、有効であるということは認識しておりますので、蛇口のレバー式への変更については、今後、状況を見ながら考えていきたいと思います。また、第二小学校でトイレの洋式化工事を行っておりますが、そちらでは、もしものが入ったら交換をするように指示はしております。貴重なご意見ありがとうございます。</p>
	<p>レバー式の蛇口ですが、確かにものがないんですね。ただし、工夫すればタダでできます。蛇口をひねりますが、ほとんど90度から180度回転させるだけで普通の水量は出ます。ですから、極端なことを言うと、蛇口に直接棒のようなものを輪ゴムで固定することで、レバー式のようにはできます。そういう工夫をしてみてください。以上です。</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p>	<p>素晴らしいアイデアをいただきました。さらにお金がかからないということであれば、市長部局としてはこんなにありがたいことはありません。実は今回、自動水洗化について、公民館ですとかスポーツ施設の一部のよく使う水道で予算化をし、議決いただいております。そちらを先行し、学校の方はかなり数が多いと思いますので、ものが入らなからうということで見送った訳ですが、そこは課題であると思います。</p> <p>ものは入らないにしても、いくら位になるのか見積りはとってありますか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>全16校で1,600か所を見ておまして、レバー式の事業費とすると400万円程を見込んでおります。作業については、業者を入れないで、職員対応で行うことを考えております。</p>
<p>谷田川委員</p>	<p>学校で子どもたちに工夫させて六年生や中学生に考えさせてもいいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>4月までもものが入らないというのであれば、その間でも、冬にはインフルエンザもありますから、何か企画をして、そうすればNHKなども取材に来ていただけたらと思います。</p>
<p>谷田川委員</p>	<p>そのコンクールなどもやってもいいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。大変ユニークな意見が出てまいりました。それでは、中村委員からいかがでしょうか。</p>
<p>中村委員</p>	<p>先ほどの英語村ですが、私が学生の頃、池袋で英語しか使えない喫茶店があったのを思い出しました。簡単なところからできると思いますので、お願いしたいと思います。それから、先ほど聞き漏らし</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>学校教育課長</p>	<p>てしまったかもしれませんが、ロイロノートはどの教科を対応させて、何年生を対象に考えているのか教えていただけたらと思います。</p> <p>ロイロノートは小学一年生から中学三年生まで全教科で使用可能でありまして、現在どの教科で使うか、学校教育課の指導主事を中心に検討をしております。そこで事例を挙げまして、各学校で計画を練っているという状況であります。</p>
<p>中村委員</p>	<p>そうすると、今後、スタディサプリとの棲み分けなども検討されてくるということでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>その通りでございます。</p>
<p>中村委員</p>	<p>それから、ICTに関連しまして、デジタル教科書というのがあると思いますが、館林市ではデジタル教科書の採用計画ですとか見通しについてはどのようにお考えでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>これも予算が必要なものでございまして、予算要望を検討させていただきまして、効果的にデジタル教科書が使えるように事業展開できればいいと思います。</p>
<p>中村委員</p>	<p>ありがとうございます。最後になりますが、コロナ禍において、先生もマスクをして教壇に立っている訳ですが、なかにはマスクをしていると声が聞きにくいという声も聞いておりますので、マイクを通すと大変かもしれませんが、何か工夫をして、児童生徒にもっとクリアに聞こえるような対策をご検討いただけたらと思います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>それにつきましては、各学校長に指示を出しまして、児童生徒が聞き取りやすい話し方を工夫させていきたいと思っております。</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長

ありがとうございます。それでは、最後に小野教育長、よろしくお
願いします。

教育長

今、教育委員会として一番大きな課題とっておりますことは、コ
ロナ禍に伴って学校や学級が閉鎖されることでもあります。特に、館
林市では、ありがたいことに陽性の発生は抑えられているところと
思いますが、近隣でも大分増えております。そうしたなかで、先ほ
ど学校教育課長から説明がありましたとおり、臨時休校時の「館林
市学習継続計画」を作成いたしました。これは、やむを得ず学校で
授業ができなくなってしまうことを想定し、教育委員会として子ど
もたちの学びをどう保証していくかということをまとめたものであり
ます。

教育委員会としては、スタディサプリを5月から使用開始させてい
ただいたのですが、非常に有効な学習ツールであると思っております。
先ほど子どもたちの満足度が8割ということでしたが、実は、
館林市のなかで比較的経済的に困難な地域の学校の子どもの率直な
意見でした。私たちが一番大切にしていきたいと思うことは、子ど
もたちの学力格差をいかにコロナ禍のなかにあっても守っていく
か、そういったところに尽きると思います。実際、塾に行けない子
どもにとって、家庭で自分が学べるこのスタディサプリがあるとい
うことは非常に有効であります。また、課長の方から話がありまし
たとおり、不登校や教室まで行けない相談室登校の子どもたちは、
教室までは行けませんが、タブレットを持って自学自習するという
ことも定着してまいりました。そういった意味で、子どもたちも非
常に分かりやすいというようなことを感想として述べてくれる子ど
もたちが約50%、アンケートでおりました。このようなことから、
できれば今後、コロナが終息した後であっても、家庭学習と学校の
教育を結び付けることによって、さらなる対面での授業をより丁寧
なものにしていくことも可能であると思っておりますので、こういったこ
とは継続できるのであればありがたいと思っております。

す。

また、ロイロノートということで本日ご提示いただきました。これは、全教科で使えるだけでなく、ポートフォリオといいまして、例えば、子どもたちが一つの単元を10時間位学習することがあります。そうすると、その10時間分自分の学習をして、そこで思ったり、考えたりしたことがすべてデータとして残るんですね。そうすると、その単元が終わった時に、子どもは自己の成長を実感できる。このことが、この勉強を通してこういうことができるようになったとか、こういうことが分かったとか、こういう考え方をしてこういう風に考え方が変わったとか、そういうことが全部履歴として残ります。こういったものはなかなかなくて、ぜひ、一年間は無料でありますので、こういったものを導入しながら研究させていただきたいと思います。

これからの新しい学習のなかでは、子どもたちの協同的な学び、主体的、対話的、協同的、要するに子どもたちが対話を通してお互いの考えを交流し合うことによって、自己の考え方の学びを深める、こういう授業がこれからの中心になっていきます。そうしたときに、一つの学習ツールがあることによって今までの授業が全く変わっていく時代になり、それを実現していく一つのツールであると思っております。

英語の話もありましたが、英語というのは、例えば、発音もしっかり覚えていくことも大事であると思います。それが一人一端末になることによって、例えば、先生なりALTなりの発音をタブレットのなかに入れていただいて、子どもたちがそれを家に持ち帰って聞く。それを今度は活かして、さらにステップアップした授業が実現できる。こういったことも大きなメリットになってくると思います。最初の大綱のなかにもありましたが、ICT化が進んでいくなかで、こういったものが子どもたちに有効に使われだすことということは、間違いなく子どもたちの学力の向上に繋がってくると思いますので、こういったことも研究していただきながら、その利点を最大限

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

	<p>に活かせるように教育委員会の方で提示していただければと思います。以上です。</p>
市長	<p>教育長ありがとうございました。事務局の方から何かコメントはありますか。</p>
学校教育課長	<p>心強いお言葉をいただきましたので、研究を進めて、ICT化、一人一台端末が有効に活用できるように、また英語教育の特徴が出せるように努力してまいりたいと思います。</p>
市長	<p>最後に私の方からですけれども、実は今日午前中に、佐野市の市長さんとテレビ会議をオンラインでいたしました。佐野市の状況は、9月11日から22日までの間に、例のホームパーティーを中心として50数名の方が感染をしております。私たち館林、邑楽管内では、実はもっと多くて78名が感染をしております。もっぱら大泉町が中心なのですが、本市においてはこの間1名ということであります。ただ、大泉町であっても、佐野市であっても緊急事態宣言を出されながら、学校が休校になっているところもなかには出てきております。そこで聞いたことは、もし感染者が一人出た場合には、本市も同様であると思いますが、まず休校にする。そして学校の消毒をする。さらに抗原検査を全員にさせるというようなことで、大体三日後くらいに再開をするということをおっしゃっていました。対岸の火事ではありませんけれども、これだけ隣接しておりますから、私たちが毎日PCR検査の結果の報告を受けておまして、今のところ月内においては3人だけなのですが、実は、何々小学校の児童の親ですとか、何々中学校の生徒の親ですとか、毎日のように話がきますので、ヒヤヒヤしております。ですので、そういった事態になり得るということも覚悟しておかねばならないのですが、その上で、事業継続をする、我々市役所であれば、業務を継続していかんに住民の皆さまに対して業務を提供できるか、民間事業者であれ</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

ば、当然、事業を継続できるのか、学校においては、学びの保障という表現をされていましたが、それができるのかということがポイントだと思います。その上でオンライン学習などを通じて、その点が担保されてきているということは、市長部局としましても大変評価をしたいと思います。

また、ロイロノートについても積極的に取り組もうとしていること、このことにも期待をしたいと思います。実は昨日、調べたことあるのですが、オンライン学習につきまして先進的なもので、4年位前に立ち上がった「N校」というところですが、沖縄に本拠地を置きながら、ネットスクールということで、カリキュラムが作られております。一方で中学の部も立ち上がっておりまして、ネットを見てみますと、やはりいろいろなオンラインの授業といいますか、メニューがあるんですね。5教科だけではなくて、例えばアートの分野ですとか、部活動、課外活動などたくさんありまして、今後、GIGAスクール構想で一人一台端末を使うことになれば、こういったこともよく調査していくと、さらに一層いいものと出会える可能性があると思います。「N校」の教材なども研究してみるといいかなと思いました。以上、今日はそのことをお伝えしようと思います。私の方からは以上でございます。

市長

それでは取りまとめということですが、皆さまがおっしゃったことはすべて前向きなご意見でございますので、全体をまとめるというよりは、執行部の方で取り入れられるものは積極的に取り入れて具現化していただきたいと思います。当然、予算を伴うものもございますから、市長部局との調整が必要になってくる部分もあるかと思いますが、いずれにしましても、前向きに具現化する方向で取り組んで行くということでよろしいでしょうか。

(委員より「はい」の声あり)

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

市長	では、そのようなまとめにさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上で、(2) コロナ禍における学校教育についての議題は終わりにしたいと思います。
市長	皆様のご協力をもちまして、無事、すべての議題を終えることができました。本日、協議されたことにつきましては、教育委員会と市長がお互いに尊重し、協力しながら進めてまいりたいと思います。
市長	最後に、その他で何か言っておきたいことがある方はいらっしゃいますか。
谷田川委員	科学館長に質問があるのですが、以前の会議で、科学館のプラネタリウムについて、夜間の運営ですとか、ネーミングライツですとか、委託の話ですとか、いろいろあったと思いますが、その後どのような進捗状況なのでしょうか。
向井千秋記念子ども科学館長	プラネタリウムの運営につきましては、相手方と交渉を続けております。コロナ禍においてはプラネタリウムの運営は大変厳しい環境にあると思います。そのようななかでも協議を続けられるのか先方に確認をしましたところ、続けられるという返事もいただきましたので、今後はより詳細な内容を慎重に進めていきたいと考えております。以上です。
谷田川委員	ネーミングライツなどについてはいかがですか。
向井千秋記念子ども科学館長	ネーミングライツの件も話の中に含まれております。
市長	協議を進めているということですね。
谷田川委員	分かりました。ありがとうございます。

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p>	<p>それでは、4 その他につきましても、協議事項ではありませんが私の方で諮ってしまいましたが、この辺で進行の方を戻しまして、議長の任を解かせていただきます。ありがとうございました。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>その他で何かありますでしょうか。</p>
<p>金子委員</p>	<p>ちょっとお聞きしたいのですが、コロナで家庭感染して、同居家族が感染して、同居家族は大体両親が多いと思いますが、両親が入院して、子どもだけ家のなかに取り残されてしまう場合、行政としてはどんな支援をしていただけるのでしょうか。本当でしたらば、近くにいるおじいちゃんおばあちゃんが頼りになると思いますが、コロナに関してはおじいちゃんおばあちゃんの出番を控えた方がいいのではと、私自身でも心配しております、その現実も近づいているような気がします。</p>
<p>市長</p>	<p>想定されるのは、まず、感染者の状況につきましては、県の保健所の方で把握いたします。私たちのところに情報がいただけるのは、覚書を交わしておりますので、私と三人位はどこのどなたが感染したということを承知することができます。家族構成までは教えてもらえるとと思いますが、まず、責任という観点においては保健所の方でそこは対応せざるを得ないんですね。そこで、相談があれば私たちの方でも内容を確認し対応していくということになるかと思えます。事例もあるでしょうから、保健所の方に確認をして怠りなくよく調査をして準備をしておくことができればと思います。</p>
<p>金子委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>その他に何かありますか。</p>

令和2年度第1回館林市総合教育会議議事録

教育総務課長

(委員より「ありません」の声あり)

それでは、本日は貴重なご意見ありがとうございました。以上をもちまして、総合教育会議の全日程を終了させていただきます。ありがとうございました。

(午後5時04分)